

数学A 学習指導案						
学年・組	2年 B組	教室	2B教室	指導者		
単元	第2章 確率		教科書	高校数学A (実教出版)		
単元目標	具体例を通して、集合の考えを適切に活用し、ある事象が起こる確からしさを数量的にとらえるにはどのように考察し処理したらいいかを考えさせる。また、そのことを利用し、確率を求めることができるようにさせる。		指導計画	1節 確率とその基本性 1 事象と確率(1) ……8時間 (本時はその3時間目) 2 事象と確率(2) ……8時間 3 独立な試行と確率 ……3時間 4 反復試行の確率 ……3時間 5 条件つき確率 ……3時間		
主 題	身近な確率 (数学的確率と統計的確率<大数の法則>)					
本時の目標	数学的確率と統計的確率を結びつける「大数の法則」を、実際の実験を通して確かめる。また、身の回りにある新聞記事等を利用し、確率についての興味と理解を深める。					
前時の課題	「さいころ」の確率についてのプリント					
本時の指導過程	指 導 内 容	分	指 導 上 の 留 意 点	評 価 の 観 点 等		
	導 入	1	さいころを投げたとき ① の目が出る確率の意味について考える。	5	<ul style="list-style-type: none"> ② ③ ④ ⑤ ⑥ の後、① の目が出る確率について考えさせる。 独立試行、同様に確からしい等に注意させる。 	<ul style="list-style-type: none"> 確率の意味について理解している。 <知識・理解>
	展 開	1	数学的確率と統計的確率、大数の法則について考える。	5	<ul style="list-style-type: none"> 数学用語の使い方に気をつけさせる。 	<ul style="list-style-type: none"> いくつかの例を出し、分類させる。 <数学的な技能>
		2	みんなで100回ずつさいころを投げる。	15	<ul style="list-style-type: none"> 実験に真剣に取り組めるようにさせる。 	<ul style="list-style-type: none"> 実験の結果を予測させた後で実験させる。 <関心・意欲・態度>
		3	データの分析をする。	10	<ul style="list-style-type: none"> 表計算ソフトを利用し、集計結果が簡単に求められることを理解させる。 	<ul style="list-style-type: none"> 分析方法を工夫させる。 <数学的見方や考え方>
	4	データの結果から考える。	10	<ul style="list-style-type: none"> 実験の結果から考えられることを自分の言葉で表現させる。 	<ul style="list-style-type: none"> 自分の言葉で表現させる。 <数学的見方や考え方> 	
	整 理	1	新聞を利用して、身近な確率を知る。	5	<ul style="list-style-type: none"> 新聞に載っている統計的確率についてのレポートの作成方法について説明する。 	<ul style="list-style-type: none"> 課題学習として取り組めるようにさせる。 <関心・意欲・態度>
次時の課題	・新聞に載っている統計的確率についてのレポートを提出する。					
備 考	普通科 I型		生徒数 26名 (男子 17名、女子 9名)			